

生活科における「言語能力」の整理

生活科における言語能力	
<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや願いを実現させるために人やもの、ことに対して働きかけようとする事。 ・対象との関わり、働きかけを通して、対象を捉えること。 ・気付いたことや考えたこと、楽しかったことなどについて、他者と伝え合うこと。 ・具体的な活動や体験を通して気付いたことを表現できること。 	

言語能力とその育成方法

言語能力	育成方法	育成方法の詳細
①自分の思いや願いを実現させるために人やもの、ことに対して働きかけようとする事。	①自分が知りたい、関わりたい対象に対して、様々な方法を通してアプローチする機会を設ける。	①調べ活動やインタビュー活動等を通して、対象のよさや自分との関わりについて認識を深める。
②対象との関わり、働きかけを通して、対象を捉えること。	②比べたり、見立てたりする試行(思考)活動を行いながら気付きを言語化させていく。	②見通しと振り返りを充実させ、考えたことや分かったことを意識する。
③気付いたことや考えたこと、楽しかったことなどについて、他者と伝え合うこと。	③直接的に伝えたり、質問に対して答えたりしながら、気付いたこと等を発信させる。	③発話やカードを用いての紹介活動を通して、気付いたことの自覚化を図ると共に、気付き同士を結び付ける。
④具体的な活動や体験を通して気付いたことを表現できること。	④言葉や絵、動作、劇化などの多様な方法により表現することで、それまで気付かなかった対象のよさや自分の頑張りに気付かせる。	④対象との関わりから気付いたことを発表する場を設けたり、他者と一緒に活動する機会をつくったりすることで表現手法や内容を吟味し、表現スキルを高めさせる。

第1学年3組 生活科学習指導案

1 単元名 なつをたのしもう～しゃちっこサマーフェスティバル～

2 単元の構想

(1) 単元の内容について

本単元は、内容「(5) 季節の変化と生活」「(6) 自然や物を使った遊び」を中心に構成している。児童は、夏の訪れを草花の生長、虫たちの活動、気候の変化等から気付き始めていく。本単元は、夏の自然で遊ぶ活動を通して、夏に関わる気付きを積み重ね、夏をより楽しむための活動をつくり出し、日々の生活を豊かにしようとする態度を育てていくことをねらいとしている。その中でも、「水で遊ぶ」(以下水遊び)ということに焦点をしばり単元を構想することとする。水遊びを通して期待できる学習の価値として、①冷たさや温かさ、感触や流れる感覚、透明性や音といった五感を通して特性に触れることができること、②遊びの中で自然の不思議さ(流れ方や浮力、表面張力、水圧)を実感することができること、③それらを生かして遊びを工夫することができることが挙げられる。また、水という学習対象に遊びを通して働きかけるので、児童の主体性を引き出し、「身近な生活に関わる見方・考え方」を生かして、児童が対象との関わりを深めていく姿が期待できると考える。季節感を生かした遊びを精一杯楽しむ経験は、その後の秋、冬に関連する学習対象への関わり方につながっていくものである。

(2) 児童の実態について

本学級の児童は、学校探検やあさがおの栽培活動を通して、新たな気付きを得ることに喜びを感じ、自分たちの生活を楽しいものにする意欲をもてるようになりつつある。夏遊びとして幼稚園等で色水作りやお店ごっこをしたり、泥遊びや水鉄砲遊びを経験したりしている児童も多い。夏の時期の水、水遊びに係る意識調査では、「気持ちいい」「流れるのが楽しい」「きらきらしている」「形がかわって面白い」等、水の特性に迫るような認識をもっている。ただ、小学校では意識的に友達と協同して遊びをつくり出す経験は少なく、活動にとことん没頭できるかどうかは個人差が大きい。まずは、友達と共に夏を感じたり、楽しんだりする活動を通して、一緒に活動する喜びやつくり出す楽しさに気付かせ、没頭できる状況や協同を促す場の設定を行う必要がある。

(3) 指導について

本時は、前時までにつくり出した遊びを工夫する時間として設定する。まず、遊びの工夫につながる視点を想起させながら、各々がめあてを決めて活動するように促す。見通しをもって活動することでこだわりが生まれ、遊びの工夫につながるであろう。活動の中では、「くらべる」「きょうそう」「いっしょに」「へんしん」等、視点を意識できるように声掛けを行っていく。また、共に遊ぶ姿や思いや考えを伝え合う姿は積極的に取り上げ、全体へと広げていきたい。そこで見られるこだわりも「見方・考え方」を生かすものとして児童と共に確認したり、主体的な姿として価値付けたりしていく。本時の最後には、活動を振り返り、めあてが達成できたかも含めて児童の活動や気付きに価値付けを行うことで、楽しんだり工夫できたりしたという満足感を味わわせる。そして、今後の活動の方向性を決める場面を設け、みんなで遊ぶための会をしたいという新たな思いや願いを導き出していきたい。

3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

夏の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付け、自然を使った遊びの面白さに気付くとともに、自分たちの生活を楽しくしようと活動を生み出すことができるようにする。

(2) 単元の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
①身近な自然の様子や自然を使った遊びの面白さに気付いている。 ②身近にあるものを使って、遊びをつくり出すことの面白さに気付いている。	①夏の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けている。 ②自分のおもちゃや遊び方を工夫し、こだわりながら楽しんでいる。	①夏の楽しみ方を見だし、自分の生活を楽しくしようとしている。 ②夏の自然と関わりたいという思いをもち、いろいろな遊びを繰り返し試している。

4 本時の指導 (11/14)

(1) 指導目標	(2) 評価規準
自分たちでつくり出した遊びを楽しむ活動を通して、遊び方を工夫したり、新たな活動への思いをもったりすることができるようにする。	イ 遊び方を工夫することができる。 【思考・判断・表現】

(3) 展開

学習活動と児童の反応 ()	教師の働きかけと形成的評価 (◆)
<p>1 前時を振り返り、本時の見通しをもつ。(5分)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>みずあそびを もっと たのしもう！</p> </div> <p>2 自分たちでつくり出した遊びを楽しんだり工夫したりする。(30分)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>【きらきらシャワーあそび】(感じる) ・ペットボトルにたくさん穴をあけたら、きらきらシャワーみたいできれいだな。</p> <p>【おととつ】(感じる)(競う) ・ビー玉を何個入れたらこぼれるか競争しよう。きれいなビー玉をつかいたいな。</p> <p>【きらきらそうめん流し】(競う)(挑戦する) ・友達とスライダーで競争したら楽しいよ。もっと高いスライダーをつくろう！</p> <p>【しゃてきあそび】(競う)(挑戦する) ・ぼくは、水鉄砲の的を増やした方が楽しいと思うけどな。</p> <p>・倒れない的を準備しよう。もっと強い水鉄砲を作るために大きな容器を使おう。</p> <p>【いかだレース】(競う) ・ぼくは、水を後ろからかけて進むいかだにしたいな。いかだの帆を大きくしよう。</p> <p>【てんじょう水族館】(感じる)(協力する) ・水がこぼれないようにいきを合わせて、水をビニールにはろう。</p> <p>・セロハンの魚をうかべたらきれいだね。</p> </div> <p>※【 】…遊びの種類、()…楽しみ方の視点</p> <p>3 本時の授業を振り返る。(10分)</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>・やっぱり友達と競争すると遊びが楽しくだね。今度は負けないぞ！</p> <p>・もっとたくさんの人たちをよんで、水遊びを楽しむ会をしたいな。</p> </div>	<p>1-(1) これまでに発見した水遊びや工夫したことを発表させることで、楽しみ方の視点を意識させる。</p> <p>1-(2) 楽しみ方の視点を基にしながら、本時の活動のめあて(個人)をもたせることで見通しとこだわりをもって活動できるようにする。</p> <p>2-(1) 前時までの児童の活動を受けて、遊びの工夫につながるような材料を用意したり、配置したりする。</p> <p>2-(2) 自分たちの遊びを楽しんだり工夫したりする姿を賞賛しながら、楽しみ方と関連させ価値付ける。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>◆自分のめあてを基に遊びを楽しんだり、工夫したりしているか。(活動の様子)【思考・判断・表現】</p> <p>A 遊びを工夫しながら楽しむことができている。 → 遊びの工夫を友達に紹介し、交流をするように促す。</p> <p>B つくり出した遊び方で楽しく遊ぶことができている。 → 楽しみ方の視点を意識させながら工夫をうながす。</p> <p>C 楽しく遊ぶことができない児童には、一緒に遊んだり、できたことを価値づけることで意欲を引き出す。</p> </div> <p>2-(3) 楽しみ方が似ている遊び同士を近い場に設定しておくことで、互いの遊びを真似したり、取り入れながら試行錯誤できるようにする。</p> <p>2-(4) 遊び方について意見が割れている場合には、自分の思いや願いを自覚させ、折れることができそうなところやもっと面白くできるようにするにはどうするか考えるように促す。</p> <p>2-(5) 他の友達に遊んでもらいたい、他のおもちゃの工夫を取り入れたいという思いが強くなった場合には、それぞれの遊びで交流することも促していく。</p> <p>3-(1) 本時を振り返り、遊びの工夫や見いだしたことに価値付けを行うことで、満足感を味わわせる。</p> <p>3-(2) 次の活動でどんなことをしたいか決める時間を設けることで、見通しをもたせるとともに自分たちで学びをつかっていけるという思いをもたせる。</p>

授業の実際と考察

(1) 自分の思いや願いを実現させるために人やもの、ことに対して働きかけようとする力の育成

水遊びと出会う場面では、暑い夏をもっと楽しむためにどんな活動をしていきたいかという問いかけを行った。前時までの公園遊びの中で水の気持ちよさを味わっていた子供の発言やこれまでの経験をつなげながら水遊びへと意識を向けることができた。水遊びとの出会いの時間では、遊び方を意識させすぎではなく、一人一人が水や材料とたっぷりと関わり、その面白さや心地よさを十分に味わうことができるようにした。いろいろな遊びを試しながらお気に入りの遊びを見付ける過程を大切にすることで、自分の遊びに満足したり、そこから発せられる気付きが遊びの工夫につながったりしながら活動を広げていくことができていた。

(2) 対象との関わり、働きかけを通して、対象を捉える力の育成

ペットボトルを用いて水鉄砲をつくる児童たちが大勢いた。水鉄砲から水が出ること自体に面白さを感じていた児童も地面に絵を描いたり、木の枝を的に見立ててかけようとしたりする姿が見られた。そこからペットボトルを的にして、倒そうとする遊びを楽しむ児童が出てきた。そのペットボトルがなかなか倒れないことから児童らの試行錯誤が始まる（図1参照）。何人かで力を合わせて、ペットボトルを倒そうと協力し始めたのである。ただ、なかなか倒れないペットボトルを前にもっと勢いをつけるためにどうしたらよいかという思考が働きだした。お互いの水鉄砲を比べることを勧めた。すると、ある児童のキャップを見てみると穴がたくさんあいており、それが勢いよく水が出る仕組みにつながっているのではないかという発言が生まれた。そこから、強い水鉄砲を作るためには穴をたくさんあけるといふ気付きが生まれたのである。また、「力を入れると勢いが出るよ」「大きなペットボトルがいいよ」といふ遊び方と水鉄砲の性質につながる気付きを生むことができた。



図1 水鉄砲の性質に迫る児童たち

(3) 気付いたことや考えたこと、楽しかったことなどについて、他者と伝え合う力の育成

遊び始めて5時目ともなると互いのやりたいことや遊びの目的意識が共有されていき、協同的に遊び始める児童の姿が増えるようになってきた。上手くいかないからあきらめるのではなく、何とか乗り越えようとする児童の姿があった。児童の声を聞いていると「こうしたい、ああしたい」という思いや願いを聞くことができるようになった。しっかりとした目的意識を共有できるからこそ、粘り強く取り組む姿勢や工夫を重ねていこうと試行錯誤することができるのではないだろうか。



図2 遊び方を話し合う児童たち

なかなか上手にできなかった「スライダーチーム」も遊びの内容を変えながらも成功できたという達成感をもって1時間を振り返ることができていた。（図2参照）児童が真に学習の主体となって学びをつくり出ししていく過程を踏んでいるからこそ、本気で対象に関わり、働きかけ、自信をもって活動できるのではないだろうか。また、自分本位では楽しめないという状況が他者とのコミュニケーションを促し、気付きが意識化していく過程を見取ることができた。さらに、今後の活動をどうしていきたいかと問うと、「他のクラスと遊びたい」と新たな活動を見いだすことができていた。遊びのフィールドを広げることで更に楽しめそうだと気付くことができるようになってきた。